

平成28年度 社会福祉法人 事業状況

桜友会 経営理念

1. 地域の皆様が人間らしく、安心して生活を送るための総合的な支援をします
2. 地域の一員として地域の思いを受け止め実現します
3. 支援を通して利用者も職員も心豊かな人生を送ります

桜友会 品質方針

1. 地域で一番信頼されるサービスの提供
2. 生涯働ける職場づくり
3. 進歩し続ける事業所づくり



平成28年度 事業状況

- | | |
|----------------------|--------------------------------|
| 1. 特別養護老人ホーム | ほほえみ福寿の家
医務室 |
| 2. 短期入所生活介護 | ほほえみ福寿の家 |
| 3. 通所介護 | デイサービスセンターほほえみ |
| 4. 認知症対応型通所介護 | まなびやデイサービスセンターほほえみ |
| 5. 訪問介護 | ほほえみ訪問介護事業所(介護保険・障害福祉サービス) |
| 6. 軽費老人ホーム | ケアハウス桜 |
| 7. 認知症対応型共同生活介護 | ほほえみごこち |
| 8. 認知症対応型共同生活介護 | ほほえみごこち田原 |
| 9. 小規模多機能型居宅介護 | ほほえみごこち田原 |
| 10. 居宅介護支援事業所 | ほほえみ介護相談センター
ほほえみ介護相談センター本町 |
| 11. 関市中央第4地域包括支援センター | |
| 12. 関市認知症初期集中支援チーム | |
| 13. 情緒障害児短期治療施設 | 児童心理療育施設 桜学館 |
| 14. 子ども家庭支援センター | とも |

15. 事業所内保育施設

ほほえみ保育園

16. 食事提供部

17. 職員の状況、財務の状況

1. 特別養護老人ホーム ほほえみ福寿の家

●目標達成状況(%)

部課名	取り組み内容	達成状況(%)
あおばの街	言葉遣いを始めとする接遇を改める事で信頼を得る街にする。接遇に関する勉強会を全職員が出席出来る日時を設定して2ヶ月に1回開催	100
	満床率(98%以上/月)	67
	個々に改善したい事を見つけ、改善提案・検討会を開催し、提案事項の進捗状況の確認をしていく(6回/年)	100
	持ち上げない介護の対象者に対して100%の実施	100
	1-① 認知症実践者研修取得(2名/年)	0
	1-② 認知症に関するスキルチェックの実施(3回/年)	100
そよかぜの街※	言葉遣いを始めとする接遇を改める事で信頼を得る街にする。接遇に関する勉強会を全職員が出席出来る日時を設定して2ヶ月に1回開催	100
	満床率(98%以上/月) 【目標達成率0%の理由】ご利用者自身の疾患による入院が多くなり、期間についても長期化してしまったため。 平成28年11月～平成29年3月までの平均満床率は93.8%	0
	個々に改善したい事を見つけ、改善提案・検討会を開催し、提案事項の進捗状況の確認をしていく(6回/年)	100
	持ち上げない介護の対象者に対して100%の実施	100
	1-① 認知症実践者研修取得(2名/年)	100
	1-② 認知症に関するスキルチェックの実施(3回/年)	80
新緑の街※	言葉遣いを始めとする接遇を改める事で信頼を得る街にする。接遇に関する勉強会を全職員が出席出来る日時を設定して2ヶ月に1回開催	100
	満床率(98%以上/月)	40
	個々に改善したい事を見つけ、改善提案・検討会を開催し、提案事項の進捗状況の確認をしていく・・・6回/年	100
	持ち上げない介護の対象者に対して100%の実施	100
	1-① 認知症実践者研修取得(2名/年)	0
	1-② 認知症に関するスキルチェックの実施(3回/年)	100
こもれびの街	居室担当がケース会議に出席し、他職員へプランの情報発信を行い、月1回のミーティングにて進捗状況の確認を実施する。・・・12回/年	100
	満床率・・・98%以上/月	25
	現場を離れた職員交流を設けるため、食事会を開催する・・・6回/年	100
	持ち上げない介護と認知症に対する知識と技術の向上を図る	
	1-① 持ち上げない介護の勉強会の実施・・・6回/年	100

	1-② 認知症介護実践者研修の取得・・・2名/年	100
せせらぎの街	1-① 認知症実践者研修取得	100
	1-② 認知症のスキルチェックを実施し評価する。(70点以上が70%)	18
	持ち上げない介護技術が必要な対象者に対して、適正な技術の実施確認	92
	1日でも長く施設生活が継続出来る介護の実践。(満床率98.0%以上/月)	58

※11月から(あおぼの街)は(そよかぜの街と新緑の街)に分かれた。

●利用状況(平成29年3月末現在)

【満床率】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
従来型(%)	98.3	98.8	99.1	99.4	98.0	98.6	97.7	98.9	97.9	97.0	94.0	97.0	97.9
地域密着型(%)	86.0	81.6	81.8	81.0	89.4	90.2	98.1	92.8	92.6	95.8	98.0	100.0	90.6

●今後の活動に向けて

特養全体	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年2月のアンケートでは、ご利用者及びご家族から多数の意見・指摘をいただいた。この意見から「社会人としてのモラル」・「介護老人福祉施設に求められる役割」など含め、基本に立ち返る必要がある。まず、指導をしていく主任及びサブリーダー会や勉強会を用いて意識を高め、一般職員にも基本から浸透させていくようにリーダーから努める。 介護職員の中では、腰痛を持っている者がいる。全職員に対し現状での移乗介助方法のチェックを行い、具体的な指導やアドバイスを実施していく。その後も現場で生かされているか継続的にチェックを行う。また、残存機能を活かした移乗介助方法など、負担の無い介護方法の徹底を行い自立支援及び腰痛予防に努めていく。 記録システムの導入により、記録を打つことは出来てきているため、内容の充実及び記録システムの有効活用に努めていく。 介護現場で働く職員に、介護員として求められる知識・技術及び接遇マナーの理解を深め、介護のプロ意識を持ってもらうよう指導していく。
そよかぜの街	<ul style="list-style-type: none"> 認知症に関する知識・技術を職員全員が理解を深めるために、認知症リーダー及び実践者研修修了者による勉強会を行い、スキルチェックを実施し理解度を図り、日頃の業務に生かしていけるよう取り組む。 職員の負担軽減に努めるため、残存機能を活かした介助方法を実践し、定期的に評価し指導していく。
新緑の街	<ul style="list-style-type: none"> 入所者の重度化に伴い、ご利用者にあった介護方法及び福祉用具の見直しを行い、購入も含め、ご利用者に安心して過ごして頂けるよう検討していく。 中庭の活用があまりされておらず、特に入所者の中でも介護度の軽い方たちが退屈であるという意見もアンケートにあるため、一緒に花を植えるなど活動を考え進めていく。
せせらぎの街	<ul style="list-style-type: none"> 残存機能を活かした移乗技術、全介助者に対しての福祉用具を活用した移乗介助技術を勉強会等を通じて習得し、様々な介助の場面で、根拠を持った介助の実施に繋げる。
	<ul style="list-style-type: none"> ユニット型特養として、今までの暮らしを継続できるよう、居室環境を整えていく。

こもれびの街	<ul style="list-style-type: none"> 福祉用具を活用した移乗介助技術、入居者の残存機能を活かした移乗介助技術を職員全員が適切に行い、入居者の方の質の向上及び職員の腰痛予防に努めていく。 長寿導入により、良質な介護記録を全職員が行っていただけるよう勉強会を通して学び実践していく。
--------	---

特別養護老人ホーム 医務室

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成状況(%)
・介護職員等に対する吐物処理方法勉強会の実施(2回/年)	100
・部署内交流会を開催する(2回/年)	100
・全ての職員が連続した3日以上のお休みが取れるよう勤務調整する(1回/年)	44
・症例検討を行う(1名/3か月)	100

単位(件)

医療機関受診			入院	死亡		看取り	家族との関わり	夜間対応		健康診断		歯科検診	予防接種	
救急搬送	臨時受診	定期受診	のべ人数	施設内	医療機関	対象人数	医療相談・異常報告	来所	電話対応	ご利用者	職員	利用者	利用者	職員
4	100	157	48	15	12	15	300	18	88	125	257	106	182	240

●今後の活動に向けて

昨年度は職員間でのインフルエンザの流行があったにも関わらず施設入所者への感染はみられなかったが、今年度は入所者に感染症発生がみられた後に職員・入所者に集団発生がみられてしまった。このことから、外部からの侵入を防ぐ対応は職員にしっかり浸透しているが、一旦施設内に感染源が入り込んでしまうと拡大させないようにする対応が弱いのだと考えられる。次年度は感染症に対する対応を早めに行うことと、感染症が発生した場合には感染症のご利用者がいるという意識づけを中心に感染拡大防止に努めていきたい。症例検討会として3ヶ月に一度症例を挙げ、看護師・理学療法士・歯科衛生士等の各専門職による視点からの情報共有する場を設けた。他職種からの情報・知識を得てケアに入れることは、利用者との関わりを持つ際の安心感に繋がった。今後も多職種の専門性がうまく絡み合ったケアがしていけるよう、他(多)職種の意見や情報を積極的に得ていきたいと思う。

2. 短期入所生活介護 ほほえみ福寿の家

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成状況(%)
・地域及び利用者の家族に向けた見学説明会の開催(3回以上/年)	0
・負担の少ない介護技術の勉強会を偶数月に行い、スキルチェック(10点満点)を奇数月に実施する。(スキルチェックの点数が8点以上 100%)	17
・1ヶ月の満床率98%以上	0
・認知症実践者研修の修了者の確保(1名/年)	100

●利用状況(平成29年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1日平均利用人数(人)	24.3	22.5	21.0	23.0	22.2	20.1	23.2	24.6	23.1	20.6	22.4	24.0	22.6
満床率(%)	93.6	86.6	80.6	88.5	85.4	77.3	89.2	94.5	88.7	79.4	86.1	92.4	86.9
平均介護度	3.1	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.1	3.3	3.3	3.3	3.4	3.5	3.2

●今後の活動に向けて

・アンケート結果にあったように、余暇活動が提供できていない状況である。29年度は、月行事委員会を中心に、余暇活動や行事の充実を図っていく。アンケート結果からも「活動を多くしてほしい」と言う意見を頂いた為、余暇時間には貼り絵等の作品作りを実施していく。また、毎月ショートステイとして行事を行う事で、利用者がショートステイを利用した際、「ただ泊まりに来た」ではなく、ショートステイを利用した時に「楽しい事があった」と思ってもらえるようなものを計画していく。各事業所には、余暇活動の様子や行事を伝える事で、「ほほえみショートステイ」をアピールし稼働率の向上を図っていく。

・現在、ショートステイ専用玄関は、玄関だと分かりづらい事と冬には外気が入りホール全体が寒くなり、利用者からも寒さの訴えがある為、二重扉の増築を検討する事で、過ごし易い環境を整えていく。

・ちょうじゅシステムの導入により、業務削減やペーパーレスが図れるようになってきた。また、排泄チェックや申し送りも出来るようになったが、まだ他にも活用できる機能がある為、職員の進捗状況を確認しながら取り組んでいく。また機能のカスタマイズを視野に入れより使い易くしていく。

・移乗介助等の勉強会を行い、スキルの上昇を図る事は重要であるが、今一度「介護の基本に帰る」という事を意識していきたい。一日を通し利用者の介助をしているが、声かけをせずに行っている所を見かける。介護の基本は「声かけ」である。一方的な介護を行っていかないと、職員全員が介助を行う際に「声かけ」を確実に伝える様指導していく。

3. 通所介護 デイサービスセンターほほえみ

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成状況(%)
①-1. 認知症に特化した勉強会及び事例検討会を実施する。(10回/年)	100
①-2. 認知症に関するスキルチェックを実施する。(80点以上が100%(毎月実施))	0
②在宅環境をアセスメントしたりハビリプログラムを実施する。(ケアカンファレンス5名以上/1ヶ月)	92
③-1. 楽しく取り組める新規レクリエーションを企画・実施する。(1件以上/1ヶ月)	100
③-2. ケアマネジャーにサービス内容をアピールし、利用日追加や新規利用者を獲得する。(1ヶ月の稼働率・98%)	25

●利用状況(平成29年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均利用人数(人)	31.5	31.4	33.6	32.4	33.9	34.8	34.8	33.9	31.8	29.6	31.8	32.8	32.7
平均介護度	2.0	1.9	2.0	1.9	2.0	2.1	2.1	1.5	2.0	2.1	2.2	2.2	2.0

●今後の活動に向けて

- ・個人の趣味や好きな事が活かせる様に、集団レクリエーションの他に少人数のクラブ活動を月3回以上行っていきたい。その中には、外出も含み、少人数のグループごとに聞き取りを行い、好きな所、家庭的な雰囲気づくりの 行きたい所の希望に応じていきたい。また「利用者の出来ること」に視点を当て、味噌汁作りを再開し、月2回から週1回に増やし定着させていきたい。
- ・リハビリについては、在宅環境とADLのアセスメントを必須とし、多職種で目標を共有し、具体的なメニューを提案していく。リハビリを希望されている方は、事前面接の時、家族の了解を得た上で居室環境を写真に撮るようにする。また、サービス担当者会議には、リハビリ担当が同席し、本人、家族、事業所間で目標について検討していきたい。理学療法士がいるデイサービスは、当たり前になりつつあるが、ほほえみの特色になる様にしていきたい。

4. 認知症対応型通所介護 まなびやデイサービスセンターほほえみ

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成状況(%)
①-1 個々の利用状況やご家族からの情報を基にケアの方向性を検討する。(カンファレンス1ヶ月に1件以上実施)	100
①-2 認知症に関するスキルチェックを実施する。(スキルチェック点数7割以上)	0
②-1 役割のある昼食作りを行う。(1回以上/月)	100
②-2 ケアマネージャーにサービス内容をアピールし、利用日追加や新規利用を獲得する。(1ヶ月の稼働率75%以上)	0

●利用状況(平成29年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均利用人数(人)	6.9	7.2	8.1	7.9	7.6	8.7	8.9	8.4	8.2	7.9	7.5	8.7	8.0
平均介護度	2.2	2.0	2.2	2.1	2.2	2.1	2.0	1.9	1.9	1.8	1.8	1.9	2.0

●今後の活動に向けて

- ・利用者が、デイサービスでどのような役割を持ち、どのような活動をしているかを見て頂く「家族見学会」を企画していきたい。また、その機会を利用し、手作り昼食やおやつを食べながら、日頃ご家族が抱える介護ストレスに対するケアや対応方法のポイントを伝える場にしていきたい。
- ・個々の利用者の出来ることに視点を向け、ランチ会やおやつ作りの担当を決めてきたが、女性、男性問わず集中して取り組んでいる。また、ランチ会以外でも施設で採れた野菜を使用した惣菜作り「キッチンまなびや」も好評で利用者のやりがいにつながっている為、今後も定期開催を目指していきたい。
- ・毎月、又は隔月に行っている家族との情報交換がケアに反映しきれていない現状がある。聞き取りした内容はケアマネージャーに情報発信しているが、目標とリンクしていない場合もある。家族の愚痴や悩みを聞く事も重要であるが、単なる聞き取りに終わらないようにしていきたい。事業所・ケアマネージャー・家族が連携をとり、在宅生活を継続する為に必要なケアについて話し合う機会を持っていきたい。

・家族が期待する脳トレ(計算問題、読み書き等)については、①どの時間帯に、②どのような内容で、③個別か集団か、④場所はどこかなど、ミーティングで検討し進めていきたい。脳トレ計画書は、通所介護計画書に位置付け、具体的に内容を記載し、毎月のミーティングで個々に評価し教材等の見直しを行っていきたい。

5. 訪問介護 ほほえみ訪問介護事業所(介護保険・障害福祉サービス)

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成状況(%)
①安定した稼働状況の中でご利用者に選ばれる事業所を目指す(可能稼働時間数100%達成/1ヶ月)	93
②全職員が認知症サポーターとなり認知症に対する知識を深め、生活環境やケアについてのアドバイスができる。(認知症に関する勉強会の開催 1回/2ヶ月)	100
③職員全体の課題共有機会を設定し、職員間で仕事上の疑問点等を検討する機会を設ける。(意見交換会 1回/1ヶ月)	100

●利用状況(平成29年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
サービス提供時間(h)	662	703	655	688	666	641	611	543	555	479	424	507	594
延利用回数(回)	672	686	643	688	666	621	590	507	514	460	395	463	575
平均介護度	1.8	1.8	1.8	1.9	1.9	1.8	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.8

●今後の活動に向けて

- 1) 訪問介護利用実績について、下半期実績が下がったが障害サービスの実績が向上している為、事業所全体で統計するとほぼ前年同比である。大幅利用していたご利用者が2名続けて入院・ご逝去された為、大きな実績の穴が空いてしまった。新規受け入れあるものの大幅利用の利用者はなく、一度に沢山の新規を受け入れる事ができず、下半期は実績が低下してしまった。他事業所交代の利用者も多く、事例の難しさ、ご利用者の要望の強さを感じる。今の所、事業所交代したご利用者が中止になっていない為、継続して利用して頂ける様努めていきたい。次年度から日常生活支援総合事業が開始となる為、円滑に移行できる様努めていきたい。市独自と国基準のサービスがあり、ヘルパーの専門性が問われている。ヘルパーの資質を更に向上させていきたい。
- 2) 認知症対応について、認知症を抱えるご利用者は進行するとグループホーム等に入所してしまう傾向にある。在宅で生活できる様支えても、ご家族が困憊し介護力が低下してしまう。ヘルパーとしては残念な結果である。ご利用者もご家族も穏やかに介護が出来る環境を導いていきたい。その為に、下半期は上半期に実施した基礎的な認知症勉強会を展開させ、ご利用者の対応だけでなく職員自身もゆとりのある温かい介護が出来るような勉強会を実施した。認知症の進行が見られる事例は、ケアカンファレンスを必要に応じ開催し対応を検討した。次年度は、更に事例検討を定期的に行い、認知症が進行しても自宅で望む暮らしが出来るよう取り組んでいき、今年度の取組を成果に繋げたい。
- 3) 職業能力向上・キャリア形成実現に向けた意見交換会について、とても有効な取り組みだった。取り組み開始時は職員の権利意識が高く、会社に対し求める姿勢が強く、会社が求めるものに応える

姿勢が不足していたが、意見交換会を通し職責を理解し仕事に対する姿勢が前向きに変わってきた。職責の理解から始まり下半期は、各職員の専門性を高める為、全職員がご利用者担当リーダーになり、リーダーとしてサービス担当者会議に出席したり、ケアカンファレンスの司会進行をしたりと責任を持って業務が出来るようになった。報告する側ではなく、される側になり、職員に指示を出す事で報告の必要性や必要な情報が理解できるようにもなった。訪問介護はサブリーダーがおらず、年度末には候補者が上がればと思いきり組んだ所もあったが、そこまでは至らなかった。職員にリーダー性を持たせる事は出来た為、主任を補佐するサブリーダーまで育成し、事業所の基盤を強化していきたい。次年度からは、新たな職員が日常生活支援総合事業の責任者となる。サービス提供責任者、責任者ともに、この取り組みを通し職責に責任を持ち、管理者任せでなく自ら職責を果たそうとする姿勢が見られるようになった。責任者として責務を果たせる様育成していきたい。

6. 軽費老人ホーム ケアハウス桜

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成状況(%)
①個別面談を行い、入居者様の望みを聞き取りその人らしい生活をお過ごしいただけるよう支援する。(1人2回/年)	100
②職員同士のコミュニケーションを図るため食事会を開催する。(2回/年)	100
他部署の行事等に職員が参加し、学んだことから新たな事業等を開拓する。(2回/年)	100

●利用状況(平成29年3月末現在)

	男性	女性	合計
入居者数(人)	10	16	26

●今後の活動に向けて

・職員の認知症に対する理解や対応を強化し入居者様のケアハウスの生活を支え、他部署との連携を密にしADLの低下がみられた入居者様には速やかに移行していただけるよう取り組む。

7. 認知症対応型共同生活介護 ほほえみごこち

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成状況(%)
①-1 地域行事に参加し、グループホームとして行事の役割を担う。(2回/年)	100
①-2 地域のゴミ拾いを入居者様と一緒にやる。(4件/年)	100
②職員の家族や知人にグループホームで行う催し物の協力をして頂き交流を図る。(5回/年)	100
③認知症ケア専門士及び介護支援専門員の資格を取得する。(各1人)	50

●利用状況(平成29年3月末現在) 平均要介護度 2.0

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度末割合(%)
要介護1	2	2	2	3	3	3	3	3	2	2	2	2	22

要介護2	4	4	3	3	3	3	3	4	5	5	5	5	56
要介護3	2	2	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	22
要介護4	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実人員計(人)	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	-

●今後の活動に向けて

- ・6月に介護4の入居者様がより適したサービスを受ける為特養へ移動された事で、入居者全員が補助具を使い歩行ができる状態となった。ADL低下への取り組みとして毎日の体操を増やすと共にボランティアの協力を得て散歩の機会を増やし、遊ビリやセラバイタル、健康寿命を伸ばす体操等で転倒防止・下肢筋力向上への取り組みを強化していく。
- ・平成29年度は職員全員が認知症介護に対し職務意識を持ち、気づきを養い、毎日の小ミーティングやミーティングでも全員が自分の意見を討議出来るよう促し、働きやすい環境づくりに努めていく。

8. 認知症対応型共同生活介護 ほほえみごこち田原

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成率(%)
①認知症勉強会の開催(6回/年)	100
②BPSDの困難事例に対する展開方法を検討し、実践する(6事例/年)	100
③認知症に関する外部研修か資格のいずれかを全員が受講もしくは取得(全職員1項目以上)	100

●利用状況(平成29年3月末現在) 平均要介護度 3.0

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度末割合(%)
要介護1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
要介護2	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	33
要介護3	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	11
要介護4	1	1	1	1	2	3	3	3	3	3	3	3	33
要介護5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
実人員計(人)	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	-

●今後の活動に向けて

- ①認知症ケアのスキルアップの向上、②大学生や地域住民の力を活かしたボランティアの導入

9. 小規模多機能型居宅介護 ほほえみごこち田原

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成率(%)
①認知症勉強会の開催(6回/年)	100

②BPSDの困難事例に対する展開方法を検討し、実践する(6事例/年)	100
③認知症に関する外部研修か資格のいずれかを全員が受講もしくは取得(全職員1項目以上)	100

●利用状況(平成29年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
登録人数(人)	22	21	22	22	22	22	20	20	21	21	21	23	21
通い利用延べ(人)	439	380	380	419	410	414	389	377	418	397	340	418	398
泊り利用延べ(人)	196	184	184	221	222	205	212	198	248	258	215	267	218
訪問利用延べ(人)	178	174	168	167	143	199	173	166	165	127	140	177	165

●今後の活動に向けて

①認知症ケアのスキルアップの向上、②小規模29名登録に向け、職員の人材確保に向けたPR活動 ③小規模を利用して自立認定を受けられた方の予防事業
--

10. 居宅介護支援事業所 ほほえみ介護相談センター
ほほえみ介護相談センター本町

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成状況(%)
1-① 新規利用者受入数月10件以上	58
1-② 各ケアマネの受け入れ稼働率85%以上	92
2 毎週の伝達会議で各利用者の情報共有をすることで連絡の不備によるミス0件	92
3 4月に行われる新カリキュラム読み解き研修に参加し、実習生を受け入れる体制を整え、年度中に各事業所3人以上の実習生が受け入れられるようにする	33

●利用状況(平成29年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
稲口	介護(件)	136	134	138	136	137	145	146	146	147	137	143	144	141
	予防(件)	30	31	32	33	35	29	28	30	33	31	33	35	32
本町	介護(件)	89	92	88	86	85	87	96	97	95	88	90	89	90
	予防(件)	20	21	21	19	20	21	22	22	21	21	22	23	21

●今後の活動に向けて

<ul style="list-style-type: none"> ・ほほえみ介護相談センターにて3月に実習生を受け入れし、実際のケアマネジメントの現場に同行してもらっている。4月には本町事業所(4月より栄町)にて受け入れしていく。 ・主任ケアマネが5人となったことで、事業所のレベルアップを図るため、スーパービジョン面談を強化していく。新任の主任ケアマネにも面談の対応をさせ、それに対するスーパービジョンを前任の主任ケアマネにて行う。 ・スーパービジョンを用いた事例検討の内容が28年度後期に実施した話し合い以降劇的に向上し、
--

事例提供者に気付きを促せるレベルとなっている。今後は主任ケアマネ以外の職員も事例提供者に気付きを促せる質問ができるようさらに継続して研修をしていく。

・ケアプランの短期目標の精度を向上させるため、短期目標をただ継続していくのではなく、改善向上していけるプランをめざし、短期目標の達成率90%以上を目標とする。

11. 関市中央第4地域包括支援センター

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成状況(%)
地域の活動に参加することで地域をより理解し、包括支援センターが地域に根ざした活動(地域ケア会議)が展開できる基盤を構築する。 (出前講座や認知症サポーター養成講座等の依頼で地域に出向く回数 6回/年)	100
総合事業に向けた地域での介護予防事業を進めていく。(①地区内での介護予防教室開催6回/年、②新規立ち上げの協力地域を持つ1カ所以上)	0
地域の困難ケースをできるだけ早期に解決する為、関係機関が集まり個別ケア会議を開催していく。(個別のケア会議の開催10件/年)	100

●利用状況(平成29年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
相談(件)	77	58	65	57	77	58	63	54	73	61	72	68	783	65
訪問(件)	102	128	134	111	126	112	126	150	126	113	130	143	1,501	125

●今後の活動に向けて

- 1) 地域に積極的に出向き、地域を把握しながら包括の役割を果たし、地域との信頼関係を築いていく。また、昨年民生委員の改選があり、新しい民生委員に包括への理解を深めていただく為、定例会等にも参加させていただいた。その結果、新しい民生委員からの相談や情報提供がかなり増えている。今後もいつでも相談出来る体制にあることをPRし気軽に相談できるような関係性を構築し、信頼関係を更に深めていく。
- 2) 介護予防事業につながる為の地域における通いの場づくりや住民主体による多様なサービスを構築するために現在取り組んでいる地区の支援を関係機関と協議していく。また、空き家の活用についても計画が順調に進んでおり、29年度は実現させていく。
- 3) 今年度に引き続き、個別ケア会議を積極的に開催し、困難ケースの早期解決はもちろんのことその積み重ねの中から、地域課題等を見出し、政策形成まで繋いでいきたい。

12. 関市認知症初期集中支援チーム

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成状況(%)
1-①. 支援対象を拡大するための関係機関(市内の各地域包括支援センター、医療機関、居宅介護支援事業所等)への訪問活動(年6回)	100

1-②. 支援対象者(20名程度を想定)の状態改善及び家族の負担軽減を図る : 2種のアセスメントツール※の評価における支援後の状況の改善(80%以上)	100
1-③. 支援対象件数(月40件) ※10月より目標設定	71
2. 認知症の支援に関する知識・技術の習得のための研修受講及び伝達(年4回)	100

●利用状況(平成29年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
対象者(件)	5	7	8	11	14	17	21	23	28	33	31	33	231	19
訪問(件)	15	49	40	42	69	56	47	79	81	71	67	90	706	59

●今後の活動に向けて

①専任で活動できることのメリットを活かして、支援を必要とする事例に幅広く関わられるよう、チームの存在を市民、関係機関にPRして、市の一支援機関であることを知っていただく。
②支援困難事例にも適切に対応できるよう、外部研修の受講や他市のチーム等との情報交換の機会を得ながら、チーム員としてのスキルアップを図る。

13. 情緒障害児短期治療施設 児童心理療育施設 桜学館

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成度(%)
① 第三者委員による職員、児童の面談 (1回/月)	60
② 外部SVの実施 (1回/2ヶ月)・施設内勉強会 (毎月)	75・70
③ 入所児童目標数 (3名/2ヶ月)	89
④ 自立支援計画の効果的活用 (3回/年)	100
⑤ 管理職・上司による面談・相談の実施 (3回/年)	80

●利用状況(平成29年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入所(人)	32	35	32	32	32	33	33	33	31	32	33	35	32.8
通所(人)	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	1	2.6

●今後の活動に向けて

<ul style="list-style-type: none"> ・下半期の入所児童数は8名、通所児童数は1名、退所児童は18名となった。今年度は中学3年生の入所児童が多く、年度末の退所が多い原因となっている。 ・今年度の入所児童数の推移から現在の暫定34名から来年度は暫定35名になると考えられる。 ・下半期受け付けた相談ケースは22ケース。そのうち入所に至ったのは7ケースであった。子ども相談センター「とも」との連動ができるようになり、相談件数が増加してきたものと考えられる。来年度に向け、より連携を強めていくことが必要であると思われる。 ・28年度重点目標である「心理治療効果を精査し、子ども相談センターの信頼を得て入所増につなげる」に向け、以下の具体的な工夫を行った。 <p>1) 新しい施設長を迎え、新しい体制での施設運営が始められた。</p>

- 2) 運営協議会の有効活用。子相を始め教育機関も集まる場を活用し、桜学館の運営に対しての意見をもらい改善に向けての動きをとった。年3回の開催が開催できた。
- 3) 子相からの相談窓口の一本化。施設長と生活部長が子相からのケース相談に対応することで子相との連携がスムーズとなり相談件数の増加につながったと考えられる。

14. 子ども家庭支援センターとも

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成率(%)
設置認可申請時の延べ相談件数目標320件を大きく上回り、350件を達成した。 (補助金事業費件数区分では年間900～1,399件ランク)	100

●利用状況(平成29年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
新規相談(件)	-	-	-	-	-	-	-	-	27	36	23	19	105	26
継続相談(件)	-	-	-	-	-	-	-	-	9	41	81	114	245	61
市町村から(件)	-	-	-	-	-	-	-	-	0	1	2	0	3	1
合計	-	-	-	-	-	-	-	-	36	78	105	133	353	88

●今後の活動に向けて

児童心理療育施設桜学館が附置するにふさわしい臨床心理士常勤雇用に見合う補助金は、岐阜県では支給されない。また、里親支援に携わる職員(他の子ども家庭支援センターは、里親支援専門相談員が本体児童養護施設から出向)の雇用経費を、ともは得ることができない。そのため、さらに上の補助金ランクを目指すことや地域の単独事業委託を受けること、各種団体の助成金を得ることなどが必要である。H30年度にはそれらを獲得すべく、積極的な事業展開をする。

1. 常勤務者3名と非常勤務者1名のチームで週6日3人勤務体制をとる。相談日および相談時間を月～金および日9:00～18:00に拡大し(H28年度は月～金9:00～17:00)、
2. 年間1,400～1,899件の補助金事業費件数区分をめざす。
3. 中濃圏域の要保護児童対策地域協議会に積極的に参加する。関市、美濃加茂市、可児市、郡上市、美濃市、坂祝町、富加町、御嵩町、川辺町、白川町、八百津町と合意済み。市町や学校等との連携では、地域の支援者を支える役割(家族応援会議のファシリテーションや研修、困難なケースのコンサルテーション)を担うと同時に、合同の家庭訪問や来所面談を行う。
4. H29年度より中濃地方里親会に事務局として協力する。里親家庭の養育支援として、家庭訪問や子育てスキルアッププログラムを提供する。

15. 事業所内保育施設 ほほえみ保育園

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成率(%)
① 保育園の掲示板等を利用し普段の様子や行事の様子等を知らせる。(2回/月)	100達成(15回)
② 園児が期待するイベント等の実施(26回/年)	100達成(12回)

●利用状況(平成29年3月末現在)

登録園児	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
桜友会(人)	7	8	5	8	11	1	40
明萌会(人)	0	0	0	2	1	2	5
地域(人)	3	3	3	1	0	3	13
計	10	11	8	11	12	6	58

(注記)年齢は平成28年4月1日時点の年齢とする

利用人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実人数(人)	26	20	15	20	26	18	23	21	29	28	24	30	23
延べ人数(人)	183	151	152	184	210	198	205	185	201	220	194	258	195
1日平均(人)	6.1	4.9	5.2	6.3	7.2	6.6	6.6	6.2	6.7	7.6	6.9	8.3	6.6

●今後の活動に向けて

言葉や文書等のさまざまな形で保護者とのコミュニケーションをより一層深め、家族にも園での様子や子どもの成長を一緒に喜んでもらえるような取り組みを行う。また、老人施設に併設されているという特色を生かし、園児が高齢者との関わりの中で他者を思いやる優しい気持ちが育めるよう保育士が働きかける。保育生活の中で、園児が楽しみながら基本的な生活習慣を身につけ、保護者、家族、高齢者とともに子ども達の育ちに喜び共感し合える保育園となるよう、必要な外部研修を受講し、ミーティング等で保育士の情報共有を徹底することで保育士の質の向上に努める。

16. 食事提供部

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成率(%)
①ヒヤリハット報告に基づいた誤配膳件数(0件/月)	0.0 達成(0回)
②地産地消献立の提供(6件/年)	100.0 達成(6回実施)
③食事訪問によりコミュニケーションを図る(2回・月/部署)	98.8 達成(245回実施)

●利用状況(平成29年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
食数(食)	775	845	839	859	861	954	980	1008	959	838	846	954	10,718	893

●今後の活動に向けて

(1)今年度、安全な食事提供を目標に誤配膳の防止に取り組んできたが、達成月は0回であった。部署対応や個人対応が増加し作業全体の複雑化、時間的な圧迫もみられるが、誤配膳の防止は現在の食事提供業務における最優先課題として平成29年度も継続して取り組んでいく。

(2)セントラルキッチン設立に伴い、新調理システムの導入とスムーズな運営が求められる。現在の業務を精査し、効率化・合理化を図りながら安定した食事サービスを提供できるよう、体制を整える。

(3)計画的な有給休暇の消化により継続して働きやすい職場環境に努める。

17. 職員の状況、財務の状況 (H29.3.31現在)

●職員数	直接雇用	281名	派遣等	17名	合計	298名	(前年	261名)
●離職率		6.4%	(前年	10.7%)				
●有給休暇取得率		32.8%	(前年	30.5%)				
●流動比率(短期安定性)		546.9%	(前年	508.5%)				
●純資産比率(長期安定性)		96.0%	(前年	95.2%)				
●人件費率(コスト合理性)		72.5%	(前年	65.6%)				
●経常増減差額率(収益性)		3.8%	(前年	12.7%)				